



研究テーマ

- 1 牛伝染性リンパ腫ウイルス感染症における防御免疫に関する研究
- 2 重症熱性血小板減少症候群ウイルス感染の疫学
- 3 牛ウイルス性下痢・粘膜病ウイルス感染症の研究



乗峰 潤三

のりみね じゅんぞう

農学部
獣医学科

教授

キーワード

牛伝染性リンパ腫、牛伝染性リンパ腫ウイルス、牛MHC、BoLA、抵抗性遺伝子、重症熱性血小板減少症候群、SFTS、豚流行性下痢、PED、豚繁殖呼吸障害症候群、PRRS、牛ウイルス性下痢・粘膜病、BVD

特許情報・
共同研究・
応用分野など

研究概要

牛伝染性リンパ腫は、日本に広く拡大し毎年畜産農家に大きな経済的損失を与えています。ヨーロッパの国では清浄化されている国もありますが、日本では全く対策がなされておらず、なんらかの対策の必要性に迫られています。本感染症には、牛の免疫が感染後の経過に重要な影響を与えていると考えられています。その免疫、特に牛伝染性リンパ腫ウイルスに対する防御免疫に焦点を当てて研究をしています。本病の病原体は、ヒトT細胞白血病ウイルス1型 (HTLV-1) に類似していますので、防御免疫機構の解明は、HTLV-1 感染症治療法の開発にも重要な役割を果たすと期待されます。

1 牛伝染性リンパ腫ウイルス感染症における防御免疫に関する研究

本研究は基礎研究ですが、同時に日本で拡大し続けている牛伝染性リンパ腫の清浄化を目指すプロジェクトにもなっています。積極的に現場の獣医師、農家の人たちと協力して、将来宮崎県を牛伝染性リンパ腫の無い県にしようという計画をしています。牛伝染性リンパ腫の清浄化は病気そのものによる損失をゼロにすること以外に、宮崎牛は健全でおいしい牛肉であるというイメージを全国に広げる効果があり、その結果、畜産県宮崎の経済を活気づけると考えています。



高千穂の棚田とその美しい自然の中に散在する牛農家

2 重症熱性血小板減少症候群ウイルス感染の疫学

本感染症は、マダニによって媒介されるウイルス性の人獣共通感染症です。2013年に初めて報告されて以来、宮崎県では全国で2番目に発生が多く、多くの方が亡くなっています。まず医学的見地から、県内の人の血清学的検査を行い、どの程度感染が起こっているかを調査します。そしてどのようなリスクがあるのか、どの程度のリスクがあるのか疫学的に研究します。同時に動物における感染との関連性について、野生動物、伴侶動物、マダニについて基礎研究を行います。

3 牛ウイルス性下痢・粘膜病ウイルス感染症の研究

牛ウイルス性下痢・粘膜病はウイルス感染症です。本ウイルスに罹患して一番問題となるのが持続感染牛です。妊娠母牛がある時期に感染すると大量にウイルスを出す持続感染牛として生まれることがあり、農場全体に本病を広げていきます。下痢はもちろん呼吸器系の症状、奇形、流産の原因になります。疫学的調査、基礎研究等を行い清浄化に貢献できればと考えています。

ホームページ

産業動物伝染病防疫学研究

<https://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/aidp/index.html>

技術相談に応じられる関連分野

- ・牛伝染性リンパ腫ウイルス感染清浄化対策

メッセージ

- ・共同研究の希望テーマ：牛伝染性リンパ腫清浄化へ向けた農家別対策の策定
- ・牛伝染性リンパ腫発生による損失に悩んでいる農家さんは、是非ご連絡ください。
- ・若齢牛で牛伝染性リンパ腫が発生したら、是非ご連絡ください。